



①前夜祭では、谷和神楽団の奉納の舞。演目の「大江山」の酒呑童子との激しい立ち回りに拍手が湧く。②鉄道のガードは道中随一の難所。腰を落としてくぐるのはつらい。

10
14

3

10
13

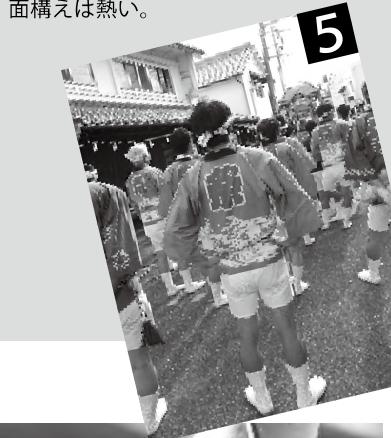
宿場町を練り歩く

西国街道の風情を残す町を「いんよーひー」「いんよーとまーじ」「いんよーがへのへー」と、市指定重要無形文化財の「玖波本陣」陣入りやっこが先を行くと、「みっこさんじやー」の掛け声のみこしが後に続きます。

「玖波祭」



③往来で縦横無尽の、みこしもみ。突っ込んでくるみこしに、沿道の観客も逃げ回る。④獅子の口から「こんにちは」⑤白壁の卯建(うだつ)の家屋が残る町。みこしもひと休み。⑥重さ30kgの大やっこはパワーとバランス、長い道中を振るスタミナが必要。⑦みこしの采配を振るう男の面構えは熱い。



5



みんな



6

7



2

10
7

①鈴を鳴らす巫女(みこ)さんの奉納の舞に、観客の視線が集まる。②厳神社の急階段を慎重にみこしが下りる。③はっぴを新調したやっこは、気合も入る。先頭の長やりは約4メートル。バランスを取りのもひとつ苦労。隊列が一直線にそろつて見えるよう気を配るという。④大名行列のお供の侍に扮した小学生。刀を持って、ちょっと興奮気味。

1



4



3

亀居城下を肅々と「小方祭」

無言のやっここの隊列が先導し、祭りの行列が小方の西国街道を行きます。「忍びやっこ」と称されるやっこは、お目付けといわれる長やりを先頭に肅々と進み、続くみこしが気勢をあげます。



1

①鮮やかな大漁旗の漁船が、港内を3周する。②島内の各家には、「大漁」「平和」などの願いに、川柳が添えられたあんどんが飾られていた。③船上の仮装した男たちが、怪しげな踊りを披露。



2



3

10
13



漁師の島では海の安全を祈願。「おしこみ」といわれる行事では、2隻を繋いだ漁船2組が、色とりどりの大漁旗をはためかせ港内を周回します。桟橋に近づいては、観客に紅白のもちやお菓子をまいて、祭りを盛り上げます。

「阿多田例大祭」

